

まるで入学式に時を合わせ、祝福するかのように一斉に咲き誇った、桜の下で皆さんをお迎えできることを大変嬉しく思います。174（別科20）人の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者、留学生を受け入れて下さいました施設の皆さまなど、この日を迎えるにあたりお支え下さいました方々にも御礼とお祝いを申し上げます。

本日の入学式は私ども学校法人旭学園にとって記念すべき日です。創設128年目を迎える旭学園が初めて、7人の男子学生を迎えるからです。ようこそ、旭学園へ、ようこそ佐賀女子短期大学へ。7人の皆さんは旭学園にとって栄えある一期生。ファーストペンギンです。

私が理事長、英語でいうCEO (chief executive officer) を務める「旭学園」は、「佐賀女子短期大学」、「佐賀女子高等学校」、「ふたばこども園」、そして車で50分位の多久市にある「ひしのみこども園」の4つを運営しています。全部で1600人を超える人達をお預かりしています。

「旭学園」は1897年、明治30年に中島ヤスという女性が裁縫 sewing を女性たちに教えたのが最初です。当時は女性が自立、つまり自分の力で生きていくことの出来る、また家族の生活を支え、助けることのできる数少ない仕事が、裁縫だったからです。さらに順和、礼讓、敬愛、奉仕を学園訓とし、学園はもとより、人間的な成長を促す方針で今日まで教育にあたってきました。

127年前の学園創設当時は、男性と女性の間に関わり合いの線引きがはっきりとあった時代でした。男性と女性がお互いの特性を理解しつつも、共同して社会を形作っている現代においては、男女共学の教育が自然であろうと判断し、男子学生の受け入れを決めました。この機会に、どうすれば男女ともに、生きやすい社会を作っていけるかを考えるきっかけにしてください。

さて、本日入学の日を迎えた162人の中にミャンマーからの留学生が53人います。ミャンマーでは3年前のクーデター以降、内戦状態が続いています。鉄砲の玉が飛び交う中に、家族を残しての学生生活です。創造の翼を広げて、隣の席に座る友人に、寄り添ってあげてください。キャンパスの中にミャンマーだけでなくネパールや韓国など多くの国籍の人がいるという機会を生かし、世界情勢に関心を持ち、平和について考えてください。また留学生の多くは日本で介護福祉士などになるために来て来てくれています。この方たちがいなければ、日本の社会は成り立ちません。創造の翼を広げることで、短大での時間は更に濃いものになるはずですよ。

「人はパンのみにて生きるものにあらず man cannot live on bread alone」という聖書の一節があります。人間はパンに例えられた物質だけではなく、精神的にも満たされることを求めて生きる存在であるという意味です。おなかが満たされてもそれだけでは人は満足できないのです。1人の人間としてどのように生きていくか。周りの人たちと、どうかかわっていけば幸せな人生が送れるのか、友達と大いに語りあい、考えてください。そうした時間を持つことも、学生時代の特権です。

皆さんにとって、この短大での日々が、充実したものになるように、教職員皆でサポートします。楽しく、実り多い学生生活であることを願っています。

令和6年4月2日

旭学園 理事長 内田信子